



FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 会報 第 98 号 (2017)

<http://www.ffsaitama.com/>

貴方の国際感覚は ☆いくつ？

■11月のお楽しみイベントが11月26日 With You(新都心)であり、30名が参加。FFとは違った視点で活躍している5人の方々が発表。当日参加できなかった方のために再登場ねがいました。



松本城をバックに

友人の村松さんから海外の方々と日本との相互理解と文化交流の素晴らしい活動をしている FFS の会を紹介していただき 2017 年6月に入会させていただきました。私もその一端を担わせていただければと思っています。

私は3人の子供の母親でもあります。一番下の子供が学校を卒業した後、自由時間が増えたので若い

通訳ガイドとして活躍して 長屋 正子

頃からの夢だった通訳案内士の資格試験にチャレンジすることにしました。

2009年に合格しました。当時は訪日観光客の2000万人突破が観光庁の目標でしたが、本年度は昨年時より早く既にその数を超え訪日客は増加しています。2020年に東京オリンピックも控えていて日本が海外から注目されているようです。日本は清潔、治安も良く、食べ物もおいしく、風光明媚な所も沢山ありとても魅力的だそうです。

私のガイドする主な地域は東京近郊、鎌倉、日光、富士山、箱根で、自宅から日帰りで行ってこられます。但し春(桜の頃)や秋(紅葉の頃)のツアーピーク

シーズンは高山、白川郷、松本、金沢、京都、奈良、広島、宮島等へと海外からのお客様をお連れすることもあります。

同じ場所をガイドしてもお客様の御興味、ご要望によって、ガイドに求められる事柄がことなります。毎回誠心誠意でガイド仕事をしていますが、終了後にお礼を言われると疲れも飛んでしまいます。今後も前向きに通訳ガイド人生を歩んで行きたいと思っています。

アフリカ大陸の大地に感動して 馬場 令子

2年前の12月に「ピースボート地球一周の船旅」に参加した。105日間の船上生活も楽しみだが、沢山の寄港地で、その国の歴史を肌で感じ、現地の人々との交流ができることが一番の楽しみだ。ここでは、ツアーの中でも、特に楽しみにしていたアフリカ大陸のナミビアのウォルスベイでの体験をお伝えしたい。

ナミビアは1990年に南アフリカ共和国から独立を果たしたが、その後も南アフリカの実効支配が続き、1994年にやっと実質的な独立を果たした。しかし、長い間の人種隔離政策はナミビアに社会的、経済的な格差として根深く残っている。国民のほぼ4人に1人がHIVに感染しているという深刻な状況もある。

ナミブ砂漠は私が一番楽しみにしていた観光地だ。この目で実際に見て、肌で感じたいと思っていた場所である。しかし、それは想像を遥かに超えた厳しい自然だった。何処までも続く荒涼とした大地に強い風が吹き荒れ、木もな



ウェルウィッチア

く、緑も無く、ただただ果てしなく続く砂の大地。唯一あったのが、2000年の寿命を持つというウェルウィッチア(和名は奇想天外)という植物だ。何とも不思議な植物である。直径が3m位あり、大地に細長い葉を広げて子孫を残しながら必死に生きている。見渡す限り続く砂漠と溪谷。乾燥した荒野と砂漠が作り出す雄大な景観は、様々な気象条件の中で刻々とその姿や色調を変化させ、神秘的な美しさを見せてくれる。強い風が作り出す芸術作品、美しい砂紋に魅了されたナミブ砂漠でした。

支援物資を運ぶ現地の人たち



ピースボート 49 北回り船旅 パレスチナ難民キャンプに2泊ホームステイして 白倉 恵美子

2005年3月
放送大の心理
学関係卒後、

国際政治を学んだ事で、5月22日～フィヨルドアラスカ周り104日間船旅乗船。20数名の船内地球大学生として、高橋和夫先生とイスラエルやパレスチナ女子大生が招待され、中東問題を連日2時間学習。スリランカ仏歯寺バス旅の後の港からのオーバーランドツアーバス旅。イスラエルのヨルダン側西岸付近を通り、キリスト生誕の教会、死海では2時間水着で浮く体験に感動。肌がスベスベに。

難民キャンプ地での大勢の方の歓迎にビックリ！支援物資を沢山手渡し、子供達と皆で集会場へ。長老主催の儀式の後は2人1組で各家庭へ。たどたどしいアラビア語も次第に指さし会話となり、夕食後は近所の参加で大勢になり日本の紹介、子供達への鯉のぼりは日本語講座

となり童謡を歌う。翌日は全員で小学校見学。正門前に「日中友好建設支援」とあり、皆おどろいたがとても嬉しかった。

2泊目の家はコンクリート造りで2階の屋上から見えた道路上で、かつて戦車をめがけ少年が石をぶつけた悲惨な光景を日本のTVで見た事を思い出し身震いした。お別れ集会の時の長老の話が未だ心に残る。日本は皆大好きだ。どうぞお金で戦争はしないで下さい！米国への日本の態度だ。バスでヨルダン空港へ着くと、あまりの美しさに思わずガメラを向けたら兵士に止められた。エジプト空港からはアンマンのホテルへ行く途中、私だけ考古学博物館には学割で入館。一泊後ギザのピラミッドやラクダに乗り、夜出港前のトパーズ号に皆で乗船。沢山買った死海の塩が税関通過で大変だった。最後の寄港地は10人でアラスカの山を登った事が私の宝物になった。

「ポトマック茶論」国際交流・生活の美学 中島 正子

1991年アメリカのメリーランド州ポトマックに転勤を機に、地元の方達に日本文化を紹介する為に衣食住の



面から「生活の美学」を一個人レベルで実践した事が「ポトマック茶論」の始まりです。まずは娘達の通う学校、老人ホーム、図書館や地域住民の方達に日本文化を紹介すると同時に、毎月自宅で日本料理を教え

たり「お茶会」「東洋医学と西洋医学講座」自宅の器を持ち寄り「陶器と漆器展」など、毎月生活の中の創意工夫を自己流に表現しながら輪が広がって行きました。ワシントンの桜祭では大使公邸でお茶会のデモンストレーションボランティア、地域では「着物とドレスのファッションショー」に出たり「暖炉を囲んで話そう会」など日米交流の始まり始まり～毎日新聞のテレックス欄では日本にワシントン生活を紹介。

帰国後は東京ワシントンウイメンズクラブでお役をしながら、我家で「シャンソンとワインの会」「昭和メドレー語りとコーラスショー」安心安全なFFCで「黒ビールやお味噌、クリーム作り」国内外からのホームステイ引受け、持ち寄りランチ、旅行、集会場所提供など25年以上続けています。今年はウイーンの楽友協会大ホールで、日本歌曲とドイツ歌曲コーラス交流を振袖着て楽しんで来ました。

日本の歴史を外国ゲストにガイドする喜び 稲垣 朋彦

ごく小さな契機がその後の人生に影響を及ぼすことがあります。社会人6年目の30年前、旧友から国際化

に備え英語を勉強しないかと誘われ英会話学校に入学(同英会話学校は在校生が勧誘を行うと授業料3割引の制度を導入、そのため私を誘った模様)。英語構文の面白さに気づき勉強進行中、異動先佐賀県唐津市との辞令。商工会議所の会員となりイベント運営に携わった同市は海外からの訪問客を含み年間観光客700万の豊かな歴史と風光明媚を誇る街。英語で海外ゲストに対応できる人員が限られており、初めてボランティアガイドを経験。当地での活動が目にとまり、東京本社に異動。米国の提携会社や業界団体本部を担当させていただいた。海外業務を通じ、ビジネスのみ



でなく音楽等の私的な話を通じ異文化の方と交流する大切さを認識。その後、金融危機に伴う勤務先の破綻、更生計画に基づく再生業務を経て希望退職。再就職先で定年を2年後に控えた現在、川越ボランティアガイドとして登録。ユネスコ無形文化遺産である川越まつりの山車を有する当市は、1200年近い歴史を誇る喜多院を始め歴史の宝庫。FFのメンバーの方々等からいただいた海外からのお客様へ歴史をお伝えする機会は同時に異文化を学ばせていただく場となっています。この度はボランティアガイドの経験を発表させていただき機会をいただきありがとうございました。(2017年12月入会)

FF 日本大会 in 郡山

熱気あふれる会場 堀切 京子



今年の日本大会は10月1日郡山クラブ主催で開催され24クラブ約200名の参加者が集い、埼玉クラブからは18名の参加者があった。

代表者会議ではFF郡山会長 中山氏の開会挨拶とゲストのFFI Operation Director Mr. Matthew Nidekが紹介された。大西理事によるBoard報告では、FFIの財政状況は今のところほぼ順調に推移しているが、高齢化に伴うクラブの停滞傾向、不安定な世界の政勢等々不安材料を多く抱えており、将来を見据えFFI 40周年を機にFFの使命を全世界に向けて革新的な活動を展開していくとのこと。

来賓挨拶に品川萬里郡山市長の記念講演「未来を拓いた一本の水路」は、郡山発展の基礎となった安積開拓の歴史の話で先人達の偉業を偲ばせる内容は私にとって非常に興味深いものだった。参加クラブの紹介に始まりFF札幌、愛知、熊本の各クラブ発表がありグループ討論の場へと移った。

受入ホストで困ったこと、FFを楽しむために工夫していること、受入プログラムの工夫、アンバサダーにアレルギーがある場合等、様々な意見が交換された。



懇親会では郡山クラブの素晴らしい合唱の披露があり、他に鏡開き、津軽三味線の演奏がありで盛会のなかでの閉会となった。

郡山クラブは創立30周年という節目を迎えての日本大会開催とのことでもあったと聞くが、会員同士のまとまりも良く今後もさらに発展していくのではと思った。



心に残る《郡山日本大会》 高橋 京子



郡山クラブとは2007年にブラジル渡航にお誘い頂き、雄大なイグアスの滝等々感動体験や、クラブ訪問で三春滝桜満喫！等を通して、私にとって郡山クラブはどここのクラブより身近な存在でした！ので、日本大会に一目散に駆けつけました。駅近くの大会場設営、ホテル、催物、特に音楽の街ならではの会員による美しいコーラス、観光ツアー等々、本当に充実したフレンドリーな2日間でした。私は五色沼&野口英世記念館コースに参加しましたが、化学通の「スペシャルガイド」佐藤紀夫さんの「大学講義」なみの名ガイドによるお勉強有り、美しい五色以上の清らかな水の彩りに雄大な裏磐梯の景色と共に忘れえぬ濃密な時を過ごさせて頂きました。幸運を呼ぶ♡マークの鯉♡にも出会え！！かつて福島から世界に羽ばたいた野口英世の“全き世界人”としての目を見張る活躍を改めて知るにおよび、FF人の先駆

者を見る思いでした。FFという土壤の中にいる幸運と意気を改めて感じ郡山クラブの皆さまに大拍手とともに“ありがとう”

《THANK YOU》を贈ります



Reunion

～渡航・受入その後～

「I want to go to Japan, suddenly.

Will you be free in October?」

というメールがマントウ作りでお世話になった台湾の蔡月花さん、通称花ちゃんからきた。OK!とドイツ渡航中の小林さんの了解も得ず返信したものの来日まで、半月もない。花ちゃんも同行するメイシヤンも10回以上来日していると聞く。帰国早々の小林さんとプランを考えた。名所旧跡、神社仏閣はパス。その代わり台湾で出来ない事を体験させようということになった。

手始めに蕎麦打ちと天ぷらのお料理体験である。これは小林宅で御主人の協力のもと行った。夕方5時半から作り始めて、延々と3時間。できあがって食べたのが8時半。この時間の長さを聞いただけでその場の様子が目に浮かぶ。天ぷらが大好きというメイシヤン、ハーフハーフ言いながら食べていたという。

体験その2は栗拾いである。田舎の家の近くに大きな山栗の木があるのにだれも拾わないという場所がある。そこに、軍手、長靴、火ばさみ、袋持参の出で立ちで向かった。落ちている栗のイガを両足ではさみ、こじ開け中の栗を火ばさみで取るのである。子どもじみているが結構おもしろい。栗拾い競争になった。花ちゃんの袋がズッシリと重い。家に戻り早速茹でていただく。栗を包丁で半分に割りスプーンでほじくって口

花ちゃんとメイシヤンの日本体験記

石井 友美



に運ぶ。しばし無言の時間が流れる。いつの間にかそれぞれの目の前に栗の皮の山ができていた。顔を見合わせて大笑い。

極めつけはりんご狩りである。台湾にはりんごの木がない。初めて見るりんごの木に大喜び。メイシヤンは「too big」と連発し次々ともいでいく。籠いっぱいりんごがとれた。値段は9980円、約1万円である。それを二人からのThank's mealならぬThank's appleと私達にプレゼントという。「こんなに沢山たべきれないよ。お土産に少し持って行ったら？」翌朝、二人はりんごで膨らんだバッグを肩に、次の訪問地松山に飛び立ったのである。



喜連川にて

Year-end Party

52名の参加で楽しい交流!



恒例の行事であるイヤーエンドパーティーが12月17日(日)に与野本町コミュニティセンターで開かれた。参加者は会員38名ゲスト14名。FFIの40周年とFF埼玉の25周年も記念してのパーティーである。20年在籍の岡田一夫さんが今までに印象に残った渡航や体験談、FF埼玉で初めてドイツ渡航

一言感想

☆皆さまのスピーチを伺いながら、私もいろいろ経験したことを思い出し感慨深い一時でした。あの数字のゲーム、集中力と敏捷性を必要とするゲーム確かに童心に帰りましたよ。ピアノとオカリナであのような素晴らしい演奏!もう一度聞きたいです。おまけに、手づくりのお菓子つきで大いに楽しみました。

池田 尚子

に参加した杉本睦子さんのFFならではの体験談、7年間に18組、30数名(交換留学生も含めて)ものホストを引き受け続けてきた羽島さんのホスト役ならではの交流やメリットなどのお話。童心に返ったゲーム。村松さん、竹下さん、曾根さんの息のあった生演奏あり。。ランチとティータイムを挟んであっという間のひとときだった。尚、本日のバザー収益金27,320円・募金4,966円計32,286円はFFIの40周年を記念してFFIへの寄付の一部とさせていただきます。(広報)

新入会員紹介



丸山 由喜雄さん

はじめまして、入会させていただきました丸山です。西村介延様の紹介で入会させていただきました。語学は、今年から勉強を始めたところですが、早くいろいろな人と交流ができるようになりたいと思っています。皆様、よろしくお願いします。



石橋 博之さん

Welcome

初めまして、今回入会させて頂きました石橋です。毎週木曜日午前の放送大学英語倶楽部で会員の西村さんの隣の席に座っています。英会話が余り出来ず西村さんに助けて貰っています。講師のポールが自分の席の近くに来ると緊張して下を向いてしまいます。西村さんからは良く海外の話を聞いています私も少しくらいは海外の人と話が出来たらばいいなと思い入会させて頂きました。宜しくお願いいたします。



2018年 3月までの予定

1月 4日(木)	会計監査(10:30～)	シーノ大宮7F 講座室2
	総会資料準備発送 (13:00～)	シーノ大宮7F 講座室1
1月14日(日)	第1回理事会(10:00～)	シーノ大宮3F 会議室3
	第2回カスタートン受入準備会(13:00～)	シーノ大宮3F 会議室3
1月27日(土)	年次総会(13:00～)	与野本町コミュニティーセンター
2月12日(月・休)	2月のイベント(10:00～15:00)	シーノ大宮9F 学習室2
	「広報企画」名刺を作ってみよう!	
2月18日(日)	第2回理事会(10:00～)	シーノ大宮7F 講座室3
	第3回カスタートン受入準備会(13:00～)	シーノ大宮3F 会議室3
3月11日(日)	第3回理事会(10:00～)	シーノ大宮7F 講座室1
	第4回カスタートンワークショップ(13:00～)	シーノ大宮3F 会議室3
3月22日(木)～	カスタートン受入れ	
3月28日(水)		



編集後記
FFSとの関わり方は皆様きっと其々です。新たなField、仕事としてもいいし日々の息抜き、または挑戦の場所としても善し。当たり前と思っていることも誰かが欲しています。あなたのお力をお借りしたいのです！お気軽にご参加ください。(H.N)

編集・発行
ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局
〒331-0815 さいたま市北区大成町4-202
TEL/FAX:048-664-2723
発行日:2017年 12月31日